

第4章 仲間が語る「あの人のこと」

亡くなった役場職員の皆さんはそれぞれ、単に数字に表れた犠牲者40人のうちの1人ではなく、当然のことながら、顔があり、名前があり、それまで歩んできた人生がありました。同僚が、先輩が、部下が、友人が、追悼の思いを込め、皆さんとの楽しかった思い出を振り返ってくれました。ここでは37人の面影をしのびました。

※かっこ内の氏名は語ってくれた人（順不同・敬称略）

加藤宏暉さんのこと

平成20（2008）年の釜石市との合併協議では大変苦勞されたと思います。総務課長などを歴任したたたき上げの役場の人で、部下の意見は大事に聞いていました。町内会で一緒に活動したり、仕事帰りには行きつけの居酒屋「勝之助」で一杯やったりもしました。本当に温厚な人でした。

（伊藤正治）

町長専用の公用車を購入する際、最初に勧められた車種を分不相応だからと断り、結局、色も無難な大衆車を選んだことがありました。

（伊藤幸人）

39歳で私が県庁に派遣され、当時副町長だった加藤さんと一緒に、出張で農林水産部長にあいさつに行った際、背広の上を着ていなかったのを見とがめて、「TPOをわきまえなさい」と指導していただきました。このことを肝に銘じ、以後、身なりをきちんと整

えるようになりました。

（平野公三）

いつもにこやかに、若手の職員にも優しく接していただきました。ジャズ喫茶「クイン」に一人でみえて、とてもリラックスした雰囲気です。マスターと話をされていた様子が今でも印象に残っています。

（八幡まゆみ）

澤館純一さんのこと

昭和50年代の台風被害で町内の橋が流された時は農林課に所属しており、同学年・同期の故木村圭治さんと名コンビで処理に当たっていました。大槌町畜産振興公社の業務も行い、地域では大ケ口自治会の事務局に従事。仕事と地域活動の両方を積極的に支えてくれる存在でした。

（越田由美子）

礼儀正しく真面目で、仕事の時は常にワイシャツを

腕まくり。それだけ役場の仕事に誠意と情熱を持って臨まれる方でした。震災の年の1月、澤館総務課長に代わってから、役場の雰囲気が一瞬にして明るく前向きになったことを今でも思い出します。剣道の全国大会上位入賞の腕前が示す通り、性格はまさに「武士」。公務員とは、仕事とは、リーダーとは……。背中で語る姿と、愛称の「サワジュンさん」……。一生忘れることはありません。

(森田英之)

部下思いで、福祉課長の時、年賀状の返事に「いつもがんばってくれてありがとう。頭が下がる思いです」と書いてくださったことが懐かしいです。福祉課にはそういう人の心が分かる方が長として来られるんだなと思いました。保育士さんからの信頼も厚かったです。

(中野久実子)

物事の白黒をはっきりさせる方で、尊敬できました。剣道の有段者でもあり、仕事においても真剣で

一本を取りに行くような強いイメージがあります。

(平野公三)

藤原宏一郎さんのこと

公私にわたって「できる人」という印象です。町長秘書の仕事を全部仕切りつつ、ほかの業務もきっちりこなしていました。コンピューター関係に詳しく、美的なセンスがあって広報誌づくりにも長けているなど、オールマイティーで何にでも興味を持ち、処理能力が半端じゃない人でした。

(三浦義章)

私が大槌保育所の保育士だった時に初めて会いました。3歳で入ってきた時から「はい、ふじわらこういちろうです。よろしくおねがいします」ってきちんとあいさつできました。いつも穏やかで落ち着いていて、利口な子でしたね、コウちゃん(藤原さん)は本当に。

(中野久実子)

高校からの同級生です。コウちゃんはいつも「俺の辞書に『忙しい』の文字はない」と話していて、どんなに仕事が重なっていても、嫌な顔一つせず、みんなの相談や要望に応え、どんなことにも対応できる万能な人でした。仕事のこと、個人的なこと、男女の関係なく、何でも話せる大親友だと思っています。

(田中彰恵)

職員有志で勉強会をした時、「私たちは公務員のプロであるべき」という話をしていたことが今でも強く心に残っています。それを人に押し付けるのではなく、難しい問題も自分の中でかみ砕き、周りの職員に解決方法を還元してくれる頼りになる方でした。

(八幡まゆみ)

小笠原広樹さんのこと

私が入庁して間もなく、広報誌の担当として「新山高原まつり」の取材で初めてカメラを持たされた時、撮影の方法を一から教えてくれました。その時に広樹

さんを被写体にした写真があるんですが、いつもと違うきりつと男前の表情。それが遺影に使われたんです。俺のやり方を見て仕事を覚えろという指導のタイプでしたが、何かあれば必ずフォローしてくれました。自分の仕事より仲間の相談に乗ることを優先させていました。

(三浦義章)

いつもにこにこしていて職員に人気がありました。カラオケでは先輩の藤原宏一郎のマイクをぱっと取って歌いだすことも。広報誌編集の傍ら、総務全般の仕事をよくがんばってやってくれました。

(平野公三)

高校の時に同じクラスで、既にひょうきん者だった彼と同じ大学に進みました。就職後も彼が広報の仕事で忙しくなる月末を除き、ほぼ毎月1回は飲み歩いていました。付き合いが長く、特に大学時代は色々やんちゃもしました。向こうはどう思っていたか分かりませんが、私の中では親友と言える何でも話せる特別な

存在でした。

(平野圭)

町のイベントの時、広報の写真を撮りに来てくれました。特に秋は休みごとにイベントがあり大変だったと思います、いつも嫌な顔をせず記事の依頼を引き受けてくれました。

(八幡まゆみ)

佐藤一葉さんのこと

やることはきっちりやるタイプ。上役にも後輩にも、ぶれずにきちんと筋を通す人でした。

(三浦義章)

一葉さんは四つ年上で、明るくていつも話題が絶えませんでした。テレビやお笑いのことなど、たわいのない会話を楽しみました。インドが好きで、いつか行きたいと言っていました。寒い日にエスニック調のストールをまもっていて、インド風で素敵だったのを覚

えています。家族思いで、弟さんやお母さんのことをよく話していました。震災の年の元旦に「また集まって飲めたらいいね」とメールを交わしたのが最後になってしまいました。

(黒澤智美)

口数は少ないが、物事をきちんと判断して仕事していました。どんな流れだったか忘れてしまいました。震災の前の年末にジャズのベスト盤を貸してくれたことがあります。

(平野公三)

とてもおしゃやかな方でした。婦人部か何かでご実家のお好み焼き屋さんで懇親会をした時、てきぱきとお母さんのお手伝いをしていたことが思い出されます。

(八幡まゆみ)

齊藤充さんのこと

中学の同級生で役場でも一緒。充の家が仲間のたま

り場になっていました。そばにいて当たり前で、いなくなつて初めて寂しさに気付きました。火葬が終わつて仏壇の前に座つた時はいろんなことを思い出して、本当に泣きました。

(金野匠)

ゲームやアニメの世界に精通していました。アニメの各ジャンルのマニアも、齊藤さんの豊富な知識にはかないませんでした。キャラクターのフィギュアを自作し、CGで設計図を作るところから始めていました。最初はゴジラや恐竜でしたが、そのうちロボット系、涼宮ハルヒなどの少女系アニメへと進化していききました。少女系は髪の毛の質感を出すのが難しいなどと言っていましたね。

(三浦義章)

町公式サイトイベントのページやバナーの作り方を、アナログな私にも分かるように丁寧に教えてくれました。動画を載せようと私が撮影したのですが、手ぶれがひどくて、「これはちょっと……」と言いく

そうに苦笑いされて、こちらの方が笑ってしまった思い出があります。

(八幡まゆみ)

パソコンに強く、緊急経済対策の一施策で実施された定額給付金に関する町民への通知プログラムも「簡単ですよ」と言つて、すぐ作ってくれました。気負いなく、淡々と仕事をする男でした。

(平野公三)

花石一さんのこと

いつも朝早く出勤して、デスクの上を掃除してから仕事を始め、勤務中はずっと集中していました。課で飲み会や誘いがあつても極力応じず、お昼も弁当を注文せずに家から持ってきたおにぎりを食べていました。理由を尋ねると、欲しい車があるので節約しているといい、ついに震災前年の暮れにその車を購入しました。筋トレも一生懸命やっていて、自分を律し、設定した目標に向かって一途に突き進むところがありま

したね。

昔のロボット系のアニメ、特に機動戦士ガンダムが好きでした。震災前年の仕事納めの日には花石さんと故齊藤充さん、故中村仁人さん、私の4人で、花巻から夜行バスに乗って東京ビックサイトのコミックマーケットに行きました。その足で、花石さんのリクエストで当時静岡市に展示されていた実物大のガンダムの立像も見に行っただです。

(三浦義章)

新車を買ったというので、栄町の家まで見に行っただことがあります。大きいものが好きな私に、静岡まで行って撮ったという実物大の機動戦士ガンダムの写真を見せてくれました。すごく感動したことを覚えています。

(平野公三)

木村圭治さんのこと

硬軟のメリハリをつけて仕事をする人でした。役場

のサッカーチームに所属していて、試合に出るのが好きでした。

(伊藤幸人)

いつも笑顔を絶やさず、同僚、部下に対しても優しく丁寧な言葉遣いで対応してくれました。他方、県庁の人とやり合うなど、気骨もありました。

(伊藤正治)

誰よりも早く出勤していて、事務室にコーヒーのいい匂いを漂わせていました。サッカーが大好きで、1998年のワールドカップフランス大会では弾丸ツアーで観戦してきたと、少しはにかみながら話していました。後輩への言葉遣いも丁寧でした。

(平野公三)

昭和50年代に農林課に所属し、設計も図面引きもほとんどが手作業だった当時、宮古市から通勤して、がんばって残業もしていました。その後、赤浜に住居を構えました。故澤館純一さんとは名コンビで、頼りが

いのある人でした。

(越田由美子)

お昼休みや仕事終わりに、宿直室でよく囲碁をされていました。仕事でも囲碁でも考えている時の真剣な顔が印象に残っています。

(八幡まゆみ)

鈴木有香里さんのこと

仕事熱心で面倒見のいい、真面目な人でした。仕事ではいつも笑顔を絶やさず、個性と創造性に満ちあふれていました。職員組合のスノーボード合宿では、頂上から何度転んでも諦めずに立ち上がって最後まで滑り切り、一緒に喜んだことを思い出します。

(藤原英志)

大槌中学、釜石南高校（現釜石高校）で同級生でした。同じ課になったことはありませんでしたが、やはり同級生の故小笠原広樹さんと3人でよく仕事帰りに

飲みに行きました。仕事の悩みからプライベートなことまで何でも隠し事なく語らい、励まし合う仲でした。真面目で夜遅くまで仕事をすることも多く、先輩からも頼りにされていました。

(阿部静子)

おっとりとした雰囲気癒やされました。話をしていると、周りをよく見ていて的確に意見を言っているなど感じることもあり、芯の強い方だったのでないかと思えます。

(八幡まゆみ)

祝田眞悟さんのこと

おとなしくて、優しい方でした。お店で一人、お酒をたしなむのも好きだったようです。

(越田宜弘)

物静かな人で、慎重派だったと思います。私が入庁した頃は農業委員会に勤務し、こつこつと仕事をする

タイプでした。写真を撮ることが趣味で、岩手日報の写真コンテストで受賞したこともあります。

(越田由美子)

物静かな印象でしたが、映画が好きでレンタル店で新作を借りた話などを楽しそうにされていました。

(八幡まゆみ)

私が入庁時に企画財政課で一緒にしました。真面目で物静かでしたが、毎日、小さい湯飲みでミルクと砂糖を入れたコーヒーを飲まれるなど、かわいらしい一面がありました。訛りが結構あり、仕事中に真顔で「トークショーに行ってくる」と定期的に出て行かれるので不思議だったのですが、登記所（法務局）のことでどど気が付くには時間がかかりました。

(佐藤明)

上野芳子さんのこと

大胆なところもある反面、繊細でした。勉強が好き

で、字もきれい。毛筆でした。ためた手紙をくれたこともありました。彼女といると、いつもお腹が痛くなるくらい笑い合ったことが思い出されます。

(佐々木直美)

私が好きなのドラマがあり、その話を覚えていたらしく、再放送された全話を録画してプレゼントしてくれました。マニキュアが大好きで、コレクションを見せてもらったことがあります。私が退職する時にもマニキュアをプレゼントしてくれました、今でも大事に使っています。面白くて、優しく、賢くて、大好きな後輩です。

(田中彰恵)

公私ともに仲良くしてもらいました。震災のあった3月の末に私の趣味のライブに行くことになっていて、良い席のチケットが届いたことを喜んでくれていました。寂しがり屋の一面もありましたが、いつも周りのことを気遣い、親しいのやさしい方でした。

(八幡まゆみ)

佐々木庸介さんのこと

税務会計課の前は福祉課にいて、保育所や児童館の再編の際に尽力してくれました。

(越田由美子)

よく冗談を言っていました。自分でコーヒーを入れて、カップを手に立ちながら飲んでいた姿が忘れられません。

(中野久実子)

仕事で困り事があって相談すると、必ず助けてくださいました。福祉課の時は夜間の緊急対応などもあり、みんな夜明かしをしたことなどが思い出されます。居酒屋の「番屋」が行きつけで、お酒やご飯もたくさんごちそうになりました。みんなから慕われた方でした。

(八幡まゆみ)

ユーモアがあり、周りにはいつも笑顔が絶えませ

んでした。仕事の面では信頼できる上司で、相談するの的確なアドバイスをしていたり、様々な調整をしていたりしました。公私ともにお世話になり、毎年秋になると山へ連れて行ってもらっていました。庸介さんがいなければ、今の自分はありません。

(平野正晃)

佐々賢一さんのこと

剣道の先生をやっていて、うちの息子も教えてもらいました。職場を離れると飲み友達で、居酒屋の「熊ちゃん」や「ながいや」によく一緒に行ったり飲むと陽気だけど、普段は礼儀正しくて几帳面でした。私が中央公民館の災害対策本部に詰めていた時、奥さんから佐々さんの居場所を尋ねられたのに、よく分からなくてきちんと答えられないことがありました。申し訳なかったなあ。

(赤崎仁一)

一つ一つ真面目に仕事をクリアしていく先輩でした。懇親会の席では、陽気に顔を赤らめて、楽しそうにカラオケを歌っていました。

(平野公三)

どんなに仕事が忙しいときも、やさしい笑顔で子どもたちに剣道を教え、試合や稽古での子どもたちの成長をとて喜んでいたことが印象に残っています。自分を律し、人に優しい方でした。

(八幡まゆみ)

私が役場へ入庁した時の最初の係長でした。いつも優しく丁寧に仕事の基礎を教えてくださいました。仕事の後は「ながいや」、「大御所」、「食道園」という定番のコースで、よく飲みにも連れて行ってもらいました。20年も前のことですが、ついきのうのようです。本当にお世話になりました。

(小國晃也)

金崎健悦さんのこと

私より二つ年上の先輩で、中学の陸上部に所属していました。足が速く、私自身は野球部でしたが、駆り出されて一緒にリレーに出たことがあります。お酒を飲んで興が乗ると、チャグチャグ馬コを歌いながら割り箸を使って踊りだすこともあって、とても楽しい先輩でした。

(平野公三)

役場の窓口で来客対応に困っていると、必ず出てきてくれて一緒に話を聞いてくださいました。退職者を送る会や職場の懇親会の時の芸達者な姿も忘れられません。

(八幡まゆみ)

私が役場に入庁した時、初めて配属された係の係長でした。温和な人柄で、一つ一つ丁寧に指導していただきました。右も左も分からない私に、仕事の参考となるからと書籍を買っていただいたのを覚え

ています。

(平野正晃)

加藤国雄さんのこと

仕事を離れたところだと、町青年団体連絡協議会(町青協)で熱心に演劇をしていました。今の「おおつちバラエティーショー」の前身みたいな感じでした。

(越田由美子)

何度か演劇を見に行きました。役場では物静かな加藤さんがすごく大きな声を出していて、意外な一面を見る思いでした。

(金野匠)

こつこつ仕事をするタイプ。緩やかな語り口が印象的で、オフ時間のカラオケは決まらずにうまくないけど一生懸命歌うし、ユニークで楽しい後輩でした。

(平野公三)

町青協のイベントで、節分の鬼役の加藤さんを偶然見掛けました。鬼役の演技が真に迫っていたので、子どもたちが本気で怖がって逃げていたのが印象的でした。

(田中彰恵)

職場では物静かでしたが、演劇で生き生きとした姿がやはり印象的です。何事も一生懸命取り組んだ方だったのだと思います。

(八幡まゆみ)

里館ひろ子さんのこと

リーダーシップがあって、いつもみんなを引っ張ってくれました。「ひろ子会」という集まりがあって、ひろ子さんを囲んで飲み会をしたり、温泉とかスキーにも行ったりしました。カラオケでは、ハスキーな声で久保田早紀さんの「異邦人」や門脇有希さんの「ノラ」をよく歌っていました。

(平野正晃)

豪放磊落^{らいらく}な性格で、〴〵浜のかあさま〴〵を地で行く方。

福祉課に配属された時には直属の係長だったので、私にとっては上司というよりも、役場のおふろ〴〵的存在でした。飲み会にもよく誘っていただき、大変かわいがってもらいました。「ひろ子会」、楽しいお酒の会でしたね。ひろ子さんの「異邦人」「ノラ」、ひろ子さんと同級で仲良しだった岩手東海新聞記者の故佐々木正樹さんの「亜麻色の髪の乙女」、もう一度聴きたいです。

(森田英之)

よく飲み連れて行ってくれました、仕事のことだけでなく、いろんな話をして、くよくよしない生き方を教えてもらいました。出張に行くとき必ず、その土地のおいしいお菓子を土産に買ってきてくれて、「休みなながら」とみんなに声を掛けてくれました。休日出勤した時にお孫さんを連れてきたことがあり、一緒にお絵描きをしたのを覚えています。さばさばしてかっこよく、姉御肌でしたが、優しいおばあちゃん的一面もありました。

(田中彰恵)

関郁夫さんのこと

昭和50(1975)年ごろ、広報誌の担当をしていて、イラストを描くのも得意でした。役場の野球部にも所属していました。釜石南高校(現釜石高校)の1年先輩で、当時、国鉄山田線終着の釜石駅で下車しバスを乗り継いで通学が難儀だったため、列車を釜石線松倉駅まで乗り入れてほしいという署名運動があり、お互いがんばった思い出があります。

(越田由美子)

公私にわたってお世話になりました。役場の野球部ではマネジャーを務められ、試合や飲み会の手配などあらゆることに気を配ってくださいました。私と違ってお酒は静かに飲むタイプでした。

(平野公三)

福祉課の係長時代は足しげく保育所に来て、いろいろ要望を聞いてくださいました。震災の2カ月前に福祉課長になられた時も「何年かブランクがあるから、

分からないことを教えてくれよな」ってみんなに語り掛けていました。柔和な方で怒った顔を一度も見たとがありません。

(中野久実子)

いつも落ち着いた話し方をされる方でした。懇親会でご一緒した時、ウイスキーしか飲まないということなぜかと尋ねたら、胃にウイスキーの膜が張ってあるのでほかのお酒では拒否反応を起こすと、いつもの落ち着いたトーンでおっしゃっていた思い出があります。冗談だったのだと思いますが、当時は私もまだ若かったので少しそのことを信じていました。

(八幡まゆみ)

倉堀健さんのこと

部下としてすごく頼りがいがありました。難しくても、私がどうやるか迷っている仕事も進んで引き受けてくれました。

(越田由美子)

倉堀とは同期です。この辺で「ポカン野球」っていうんですけど、ビニールのボールとプラスチックのバットでプレーできれば大丈夫だからと、一緒に役場の野球部に入りました。彼は運動神経がよくて、バスケットもサッカーもできました。同期は男女7人いて、一緒にお酒を飲んだり、カラオケに行ったりというのはしょっちゅうでした。

(平野正晃)

福祉課で私の隣の席でした。賢かったですね。仕事の飲み込みが早く、遠回りせずに、どうすれば一番要領よくできるかを考えてから行動に移すタイプでした。

(小國晃也)

仕事で行き詰った時、倉堀の一言で、気持ちごとにも楽になったことがあります。今でもガチガチになりそうな時は、その一言を思い出します。

(田中彰恵)

フットワークがよく、頼りになる方でした。職場で車いすの方が勤務されていた時、何かあれば誰よりも先に介助していたことがとても印象に残っています。心優しい方だったのだと思います。

(八幡まゆみ)

阿部久美子さんのこと

保健師として、地域のこと、住民のことを第一に考え、いつも最善を尽くしていました。地域包括支援センター班長として、福祉課長や各班長とよく話し合いながら仕事を進めていました。

(越田由美子)

包容力があり、班員の信頼も厚く、誰からも好かれる方でした。信頼していただき、課題となっていた業務を任せていただくなど、地域包括支援センターでの経験は、私の大きな財産となっております。

(佐藤明)

女性として、保健師として素晴らしい方でした。明るくて、どんな人にも分け隔てなく声を掛けていました。

(中野久実子)

直属の上司で、同じ保健師としていろいろ教えを受けました。入庁したばかりの私の意見もくんで、仕事を任せてくださいました。頭ごなしに駄目と言われたことがなく、部下を信頼して指導していただいたと思っています。

(阿部静子)

私の結婚式の幹事を引き受けてくれました。気配りの人で、「クミちゃん」と呼んで気を許せる仲でした。

(平野公三)

地域包括支援センターで一緒にお仕事させていただきました。いつもにこにここと穏やかでしたが、仕事に対しては熱意を持って取り組まれていました。荒立てることなく物事を解決してくれる、理想の上

司でした。

(八幡まゆみ)

小笠原裕香さんのこと

裕香ちゃんは窓口の対応が丁寧で優しいので、毎日のように会いに来るおじいさんもいました。役場で採用された社会福祉士は彼女が初めて。故澤館純一さんが福祉課長の時に、お客さんを各課でたらい回しにしないでワンストップで対応できるようにという意向からでした。裕香ちゃんは窓口でいろんな所につないでくれて、本当に頼りになりました。

(黒澤直美)

ある時、高齢のご夫婦から「病院に行きたいけど財布と保険証が出てこない」という電話があり、そばでやり取りを聞いていた裕香ちゃんが自分の担当のご家庭ということ、一緒に家まで行って探してくれました。いつも心から寄り添って相手の話を聴いていたのが印象的で、町の弱い立場の方々のことを裕香ちゃん

が一番よく知っていたと思います。本当にいい子で、いい子で。

(中野久実子)

平成22(2010)年の「ふるさとCM大賞」(岩手朝日テレビ)の収録で、町のキャラクターおおちゃんに扮してくれたのが印象深いです。総務課で準備のため着ぐるみに入るのを見て、「恥ずかしくないか」って聞いたら、「私、好きなんです」って言って、手足を動かして見せてくれました。あの時の笑顔が忘れられない。

(平野公三)

同期で入庁して、地域包括支援センターで4年間、苦楽を共にしました。年下なんですけど、仕事ではとても頼りになり、責任感も強かったです。成年後見制度の新しい条例を作る時には、社会福祉士として本当に努力、奮闘していました。

(阿部静子)

岩間成子さんのこと

明るくてはきはきとした方でした。息子さんが野球でがんばっているという話を聞いたことがあります。故小笠原裕香さんと仲がよくて、私も交えて3人でよく冗談を言い合っていました。

(佐藤明)

震災の前年度に町内の介護施設から役場に来られました。その施設では訪問看護に尽力されたと聞いていて、看護師としてすごく仕事のできる方でした。おごったところが少しもなく、一から教えてくださいますという姿勢でとても謙虚でした。

(阿部静子)

私どもの施設が訪問看護部門を立ち上げた当初から看護師として約10年間、活躍してくれました。当時、3人一組で車に乗り込み、大槌町のほか釜石市や山田町の高齢者宅を一軒一軒回り、生活の介助やリハビリのお手伝いなどをしていました。何か問題があれば、

副施設長だった私に「元さん、お話があります！」と言って、物おじせず解決に動きました。職場では明るいムードメーカーで、飲み会のカラオケでZARDの「負けないで」を歌っていたのを思い出します。

(山崎元)

息子さん2人が少年野球の安渡タイガースのメンバーで、私がコーチでした。試合の時は縦じまの衣装で一生懸命に応援し、大変な熱の入れようでした。

(小國晃也)

菊池則子さんのこと

さばさばとされていて、自身のつらい経験も明るく話せる人でした。

(中野久実子)

以前は歯科衛生士をしていて、幼かった私の息子が歯科医院で治療中に則子さんの指を誤ってかんでしまったことがありました。役場で顔を合わせた時に謝

ると、「いいんですよ。気にしないでください」って
にこにこしていましたっけ。

(平野公三)

猫や犬が好きで、家で飼っていたそうです。猫にか
まれたとか、爪を引っかけられて服がほつれたとかい
う話をよくしていました。仕事では何事も自分から積
極的に関わろうという姿勢でした。

(小國晃也)

休日には海水浴場でライフセーバーをやっていて、
アクティブな方でした。保護犬の情報をネットなどで
見ると居ても立ってもいられず、何度もアクセスして
「もらい手が見つかった」と言って喜びながらも残念
そうな表情をしていました。則子さんが携わった福祉
課の業務では、もう少しで「子育てガイド」のパンフ
レットが出来上がるところでした。データが津波で流
されなければ完成させて町民に配りたかったです。

(黒澤直美)

佐々木良一さんのこと

故澤舘純一さん、故木村圭治さんと同学年。良一さ
んは建設課、澤舘さんと木村さんは農林課で隣同士の
課でもあったことから、何かと話をする機会があつた
ようです。冗談好きな反面、仕事を一生懸命にする人
でした。

(越田由美子)

仕事に対する考え方を教えていただきました。「仕
事を俯瞰してみる」と言われ続けましたが、未だでき
ていないことを心苦しく思います。特産品の話をして
いた時、シウリ貝（ムール貝）の話題となり、子ども
の頃に船の上でシウリ貝を七輪であぶり、半生で食べ
たという話をされていて「あれ、すげえおいしいんだ
よ」ととても懐かしそうにされていたことが思い出さ
れます。

(八幡まゆみ)

人の倍以上仕事をこなしていた方だったと思いま

す。私が息子さんの年齢と近いということ、子どもと仕事をしているようだと言談を言って笑っていたことが思い出されます。「簡単に（合理的に最短で）仕事をしなさい」との言葉を頂いたのが印象的で、すごく共感したことを覚えています。

（佐藤明）

六串俊範さんのこと

私と誕生日と干支が一緒でした。ちょうど一回り上で。役場の野球部の監督をされていて、かわいがってもらいました。

（白澤洋喜）

釜石南高校（現釜石高校）の野球部ではスラッガー（強打者）で鳴らし、野球を愛好する者同士という親しみがありました。後になって私の審判仲間が話題にしているのを聞いて、「本当にすごい男だったんだなあ」と思いました。一度、何かの折に「公三さんらしくない」と親しみを込めて注意され、反省した時のこ

とが強く印象に残っています。

（平野公三）

釜石南高校の先輩。野球部のキャプテンで左打者でした。お酒が好きで、声も大きい。話しやすい雰囲気なので、みんなから慕われました。

（小國晃也）

仕事でも駄じゃれを言っては周りを楽しませてくたさいました。娘さんたちのために「嵐」のライブチケットを買いたいといろいろと調べていて、やさしいお父さんだなと思っていました。同期入庁でした。

（八幡まゆみ）

一回り以上年齢差がありましたが、友達感覚でお話させていただき、一緒に仕事をするときもよく笑っていた印象があります。プライベートで遊ぶことも多く、一緒にいて楽しい方でした。

（佐藤明）

佐野雅樹さんのこと

リーマンショックの後の緊急雇用で産業振興課に来てもらいました。測量ができたので、おかげで未完成だった農道台帳の整理が進みました。真面目な人でした。

(臼澤洋喜)

おとなしく控えめなタイプ。穏やかで人当たりがよく、みんなから好かれました。飲み会にもよく顔を出し、帰りに先輩を送ってあげることもありました。課外活動と一緒にフットサルをやりました。

(小笠原佑樹)

懇親会などでお酒を飲むと、真っ赤になってにこにこしていたことが印象深いです。役場の正職員になりたいと試験勉強をがんばっていたことが思い出されます。

(八幡まゆみ)

兼澤圭作さんのこと

新山牧場で一緒に仕事をして、30年にもなる付き合いでした。牧場で使うトラクターや、それに付ける草刈りの作業機など何でも自分で修理し、ちよつとした部品も手作りしていました。いつも段取りを考えながら仕事に励み、頼りになる先輩でした。お酒が好きで、飲むといつもにこにこしていたのを思い出します。

(佐々木和之)

奥様と仕事で一緒にしていたことがあり、ご夫婦のなれ初めを伺ったことがあったのでそのお話をしたら、少し照れてうれしそうな顔をされていたことが印象に残っています。専門のお仕事をされていましたので、職場での信頼も厚かったです。

(八幡まゆみ)

小川千里さんのこと

大槌中学校が荒れて大変だった時期にPTAの役員

で、学校の立て直しに尽力しました。夜遅くまで対策会議をして、学校の中で抑え込むんじゃなく、地域を挙げて子どもたちを育てていこうという機運を盛り立ててくれました。

(伊藤正治)

娘さんの名前が私と一字違いだからと言って、休日出勤をしているとよくあめ玉をくれました。気さくな方でした。

(黒澤直美)

家が近所です。津波の後、城山の災害対策本部で私に対応中の留守に、千里さんのお父さんが何度も息子の安否を気にして訪ねてきたと妻から聞き、胸が痛みました。生前の千里さんには、人付き合いの仕方などについて貴重なアドバイスをしていただきました。人間関係を大切にする方でした。

(平野公三)

お仕事で一緒にすることはなかったのですが、娘さ

んが書道展で入賞された際、「娘さん、すごいですね」と声を掛けたら、とてもうれしそうな顔をされていたことが印象に残っています。

(八幡まゆみ)

三浦英人さんのこと

安渡の地元で保育所からずっと一緒の1歳年上の幼なじみで、小さい頃の写真もあります。役場のラグビー部に所属し、私も英人さんに誘われて試合に出たことがあります。英人さんから「ラグビーは紳士のスポーツだ」と言われたことが心に残っています。

(平野公三)

怒られるかもしれませんが、「くまのプーさん」に似ていると思っていました(笑)。少し怖いイメージがあったのですが、話をすると優しい方でした。仕事熱心だった印象があります。

(佐藤明)

同じ安渡出身でしたので、私にとっては「神楽の英人さん」という印象が強く、小学校の頃から安渡大神楽で踊りの基礎を教えてもらいました。お祭りの時は、いつも行列の先頭で子どもたちを見守る姿が印象的でした。スポーツ少年団でも大変お世話になりました。

(小國晃也)

前川美知さんのこと

美知は釜石南高校（現釜石高校）で同学年。20年以上前、県内では水沢高校にしかなかった女子サッカー部を釜石南高校に創設した中心メンバーでした。教育学部の出身で、役場に就職する前は大槌北小学校（現大槌学園）で講師をしていました。役場では最初に町民課に配属され、教職と打って変わって、町民と接する最前線で戸惑いもあったと思いますが、持ち前の明るさでがんばってくれました。役場の野球部のマネージャーも務め、熱心に活動していました。

(小國晃也)

女子職員の会の時、自分で衣装まで準備し、歌って踊ってみんなを楽しませてくれたのを思い出します。でも、一番楽しそうなのはみっち（前川さん）本人でした。結婚報告の時の「お先しまーすっ」のあの意地悪な笑顔が忘れられません（笑い）。本当に、本当にかわいい、かわいい後輩です。私が退職してからも時々、近況報告のメールをくれて、子どもに作ったお弁当の写メを自慢げに送ってきたこともありました。愛情が詰まったかわいいお弁当でした。

(田中彰恵)

先輩職員にも臆せず意見し、良い仕事をしようとしていた姿勢が印象的でした。システム導入の時も、定住促進住宅設置の時も、新しい仕事に一生懸命に取り組んでいました。

(八幡まゆみ)

中村仁人さんのこと

同期で親しくしていました。社交的ではあるんですが、自称「明るいオタク」。インドア派でゲーム好きでした。よく金曜日の夜に仲間の家に集まって、朝まで「モンスターハンター」などのゲームに興じていました。津波があった日も会うことになっていました。多少マイペースなところがあり、遊びの約束の時間になっても現れず、家で熟睡していたなんていうこともありました。

(菊池信也)

私と同期で、自分の関心のある世界にどっぷりはまり込むところがありました。アニメやゲームなど共通の趣味があったので、よく一緒に遊びました。少女系のアニメが好きでしたね。

(三浦義章)

彼のお父さんは消防士で、一緒に朝野球をやる先輩でした。中村さんの息子が役場に入って来たなと思

い、「お父さんのことはよく知ってるよ」と声を掛けましたことがあります。

(平野公三)

岩間久さんのこと

同級生でした。久っという名前なのに、不思議とみんなから「大ちゃん」と呼ばれて。なぜかというところ、役場に入ったばかりの頃に、何かの席でアニメ「いなかつペ大将」の主題歌「大ちゃん数え唄」を披露したことあったんですね。それから、先輩も後輩もみんな「大ちゃん」って。

(越田由美子)

役場の野球部で一緒でした。私と同じくレギュラーではなかったけれど、ムードメーカーでした。岩間さんが結婚するまで、岩間さんの自宅でマージャンをするのが、若い頃の土曜の午後の楽しみでした。

(平野公三)

三浦徳幸さんのこと

私が平成13(2001)年に入庁した時、水道事業所で初めての先輩。10歳年上で、仕事のノウハウや社会人としてのふるまいを教わりました。よく一緒にお酒を飲み、公私にわたって弟のようにかわいがってもらい、毎月お金を積み立てては年に一度、旅行に行っていました。お酒は焼酎、たばこはロングピースを好んでいました。吉里吉里きりきりにヒラガニを釣りに行き、大きいのがかかると自分の名前を付けて「これはノリガニだ」、小さいのだと私を指して「エイシガニだ」とおどけていました。よく娘さんや息子さんのことを気に掛けていたので、元気で暮らしていることを伝えてあげたいです。

(藤原英志)

漁協さんの物販があるとき、よく取りまとめの窓口になられていたので、最初は水産関係の職員の方だと思っていました。後に技師さんだと知って少し驚いた記憶があります。私がいた産業振興課へ顔を出すとき

は、当時職員の古舘一義さんとの掛け合いが面白くて、いつも笑っていたことが思い出されます。

(八幡まゆみ)

川端大佑さんのこと

朴訥とした方でしたが、弊社が管理する大槌浄化センターでは細かなことも含めていろんな話をしました。業務改善の要望にもよく応えてくれました。

(佐々木真也)

役場サッカー部で大活躍しており、試合中どんなに距離があっても、予測通り足元にパスをくれたので、そのテクニクに衝撃を受けました。プライベートで7月7日に盛岡で一緒に遊んだのは忘れられません。

(佐藤明)

家が安渡で近所同士。双子でサッカー選手だったので有名でした。物静かでいつも冷静。役場に出勤する時によく一緒になり、駐車場から歩きながらとりとめ

のない話をしたものです。

(小國晃也)

小学生の頃、サッカーチームのコーチをしていただきました。普段は優しく、時には厳しく指導してもらったことを覚えています。新チームだったので、1年ほどこか一緒にできませんでしたが、楽しくサッカーできたあの時間はとても印象に残っています。いつかプレーヤーとして、一緒にフィールドに立ってみたいかったです。

(古川海暉^{ひかる})

佐藤拓也さんのこと

吉里吉里の小中、釜石南高(現釜石高)とずっと一緒でした。高卒後は2人とも千葉や東京に出て、もう1人の吉里吉里出身の友達と3人でよく遊びました。地元に戻ってから同じメンバーで毎週のように会って、家の2階でお酒を飲みながらゲームをしていました。目立つタイプではないけど、明るい性格でした。

ささいなことでもけんかもしましたが、次に会う時にはけろりとしていました。気を遣わない、そばにいたり前、いつも自然に集まる仲間でした。

(倉本和博)

農林課で一緒でした。真面目だけどノリがよく、地味に面白い人。同世代なのでギャグが通じました。役場のサッカー部では故川端大佑さんと共にディフェンスを務め、川端さんがセンターバック、佐藤さんがサイドバックという布陣でした。

(小笠原佑樹)

小國奈穂子さんのこと

ナオちゃん(小國さん)は同級生で家も安渡の近所。家族ぐるみの付き合いで、桜の季節にはよくみんなで見えをしたものです。保育所から安渡小、大槌中まで一緒、大人になってからも2人でよく遊びました。人見知りするタイプといえそうですが、仲良くなればとても気さくな人でした。カナダへの留学経験

があつて、洋楽を聴くのが好きでした。

あてどなく一緒にドライブすることが多く、震災前年の秋ごろはひたすら国道45号を下って宮城県石巻市まで行きました。ナオちゃんは14歳離れた弟のためにドーナツをお土産に買い、道の駅で温泉に浸かって帰ってきたことを覚えています。短大の卒業旅行先の沖縄が気に入ったらしく、お金を貯めていつか一緒に行こうねと話していた矢先の津波でした。亡きがらは翌月、私が帰省していた時に見つかり、火葬に立ち会うこともできました。もう一度会って、いろんなお話がしたいです。

(前川里美)

普段は物静かな方でしたが、給湯室では、故押野千恵さんと楽しそうにおしゃべりしながら茶わんを洗ってくれていました。2人がいる給湯室はなんだか華やいでいて、ほほえましく思っていました。

(八幡まゆみ)

押野千恵さんのこと

オッシー(押野さん)とは中学校からの友人で、高校でも毎日みんなと一緒に弁当を食べるなど、楽しい青春時代を過ごしました。オッシーは修学旅行で出会ったバスガイドさんに憧れて進路を決め、京都で就職したので、高校卒業後、友人たちはみんなそれぞれ土地で数年過ごしましたが、年に数回は必ず集まって楽しい時間を過ごしました。オッシーはバスガイドとしてがんばっていて、帰って来ると「大阪うまいもの歌」を歌ってガイドの仕事の楽しさも教えてくれました。それが面白くて私たちは何度もリクエストして歌ってもらいました。

京都から大槌に戻ってからは職場の町役場と私の実家が近かったため、よく仕事帰りに会って話をしました。優しいふんわりとした人柄の反面、目標に向かって努力する姿を誰かに見せるわけではなく、人知れずこつこつとがんばっていました。そういう面もとても尊敬しています。10年も経ったけど、3月11日が近づくと一瞬である時に戻る感覚があつて、私たちは

オツシーとの楽しい日々を鮮明に思い出し、決して忘れることはありません。

(小國智美)

いつも大型コピー機で図面を作成していたことが印象に残っています。イベントの時などに、コピー機の使い方を嫌な顔をせず教えてくださいました。いつもにこやかにお仕事されていたことが印象深いです。

(八幡まゆみ)

前川正志さんのこと

私が平成4(1992)年に入庁して中央公民館に配属された時、先輩として事務のイロハをやさしく教えてくれました。昼休みはよく一緒に将棋を指し、強かったのを覚えています。

(祝田茂)

寡黙で実直。仕事は正確で、時間がかかっても理解するまでとことんやりました。議会のことも詳しくかつ

たです。理不尽なことがあると「これはおかしい」と率直に口にする一面もありました。

(赤崎仁一)

ロックが好きで、ドラムをたたいていました。カラオケでレッドツェッペリンを歌うこともあったけど、千昌夫さんの「味噌汁の詩」が一番上手だった。酔って顔を真っ赤にしながら歌っていたのを懐かしく思い出します。

(平野公三)

真面目で物静かな方でしたが、話し始めると終始にこにこしていました。

(澤館悦子)

町民福祉課と議会事務局で一緒に働かせていただきました。議員さんの視察研修先の調整や会議録作成などを黙々とこなしていた姿が思い出されます。ギターが好きで、ギターの曲の話をしてくれたことが印象に残っています。

(八幡まゆみ)

大槌町役場職員

大槌町東日本大震災津波犠牲職員状況調査報告書

令和3年（2021年）7月発行

編集・発行 岩手県大槌町

〒028-1119
岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号

印刷・製本 三協印刷

〒028-1110
岩手県上閉伊郡大槌町赤浜1丁目3番23号

本書の著作権は大槌町に帰属します。